
日本高気圧環境・潜水医学会 東海北陸準備会

開催世話人 豊田 泉 (岐阜大学大学院 医学系研究科)
日 時 2017年7月1日 (土)
会 場 岐阜大学サテライトキャンパス

特別講演 「名古屋大学の高気圧治療部の変遷」

西山博司

中部大学

元独立行政法人 名古屋大学医学部附属病院 高気圧治療部

最初に、当初、私に与えられた「東海地方のHBOの歴史」についてですが、この課題の資料も知識もないことから今回、私が高気圧酸素治療技師として長年、勤務した名古屋大学医学部附属病院高気圧治療部で得た情報などをもとに「名古屋大学の高気圧酸素治療の変遷」と題し与えられた課題に変えてお話しします。

名古屋大学における高気圧酸素治療は当初、昭和41年(1966)に名古屋大学医学部第一外科教室の高気圧酸素治療室として開設され、昭和50年(1975)10月には全国の国立大学で初めて高気圧治療部として認められた特殊診療部門ですが開設に伴って職員も教官2名、技師2名の増員が認められ、その技師増員枠の一つを私に充てられました。翌昭和51年(1976)4月には治療部独自の病床も配分され、昭和57年(1982)には教授職が付き、教授、助教授、助手2名、治療技師4名と再整備されました。治療件数も専任教官の後継者不足や採算性などの諸問題で廃部となる平成17年(2005)3月までに15万件を数え、院内の多くの診療科に利用されてきました。この部門は世界的にも全国的にも有名な治療施設で、特に研究面や治療方針、装置の安全運用では我が国の高気圧環境医学会をリードしてきました。

フリーディスカッション 「各施設からの紹介と東海北陸地方会のあり方」

豊田 泉

岐阜大学大学院医学系研究科 救急・災害医学分野

日本高気圧環境・潜水医学会東海北陸地方会は今回の準備会を経て、来年度、2018年7月に第1回を開催予定としている。事務局等は岐阜県美濃加茂市の木沢記念病院とする。継続的に本学会が開催されるよう、多くの方々からご意見をいただける様なディスカッションの場を設けさせていただくとともに、以下の施設でのHBO使用の現況をご紹介いただく。

- | | |
|-----------------|-------|
| ①公立陶生病院 | 野堀耕佑 |
| ②厚生会 木沢記念病院 | 加藤恭浩 |
| ③岐阜大学医学部附属病院 | 柚原利至 |
| ④JA愛知厚生連 豊田厚生病院 | 西山和芳 |
| ⑤石川勤労者医療協会 城北病院 | 南 彩 |
| | &etc. |
-

招請講演 「救急関連ガス事故と高気圧酸素治療」

土居 浩

牧田総合病院 蒲田分院 脳神経外科

【目的】

救急医療におけるガス事故に関しては一酸化炭素中毒における高気圧酸素治療や低酸素状態に対する治療が知られているが、硫化水素中毒などとも関連していることが知られている。しかし最近ではヘリウムガス吸引の事故や医原性の脳空気塞栓なども経験し、特殊な状況に関して報告する。

【対象】

一酸化炭素中毒に関しては平成6年荏原病院開設以来平成28年までに経験した190例に検討を加えた。硫化水素中毒は平成26年に1例経験。ヘリウムガスに関しては声変わりのヘリウムガス缶(He80%)吸入による

る脳動脈ガス塞栓症1例を平成27年に1例経験した。一方ヘリウムガス100%吸入による自殺例で高気圧酸素治療により救命した1例を平成28年に経験。医原性の脳空気塞栓症は、CT下肺生検による脳動脈性空気塞栓症を2例経験した。またCVカテーテル抜去時に脳静脈性空気塞栓症を平成28年に1例経験した。

【結果】

上記疾患に対して全例高気圧酸素治療が有用であったが、症例によって通常の高気圧酸素治療ではなく米海軍の表を中心とした再圧治療が必要であった。

今回は上記疾患を中心に講演するが、減圧症でも空気塞栓症を呈したり、全身に空気の存在があり、高気圧酸素治療における空気との戦いを中心に、救急における高気圧酸素治療を中心に講演する予定である。